

重点取組名	水田大豆の小畦立栽培による高収量団地実証
普及活動担当	佐々木 力 (岩手県農業研究センター専門技術員室)
主要な活動地域・対象農業者	水田作大豆地域(北上川中・下流域の重粘土地帯) 実証ほを花巻地域に置き、活動の拠点とする。
取組結果・成果 (取組みのねらい)	<p>・ねらい 本県大豆の作柄は、頻発する長雨などにより不良となっており、実需者から品質・収量の安定化を強く求められている。このため、「小畦立栽培」によって、圃場の排水性を高め、大豆の安定生産を実証するものである。</p> <p>・結果 代かきロータリーの耕うん爪の配列を変更し、水田代かき用均平板を取り外し、ロータリーカバーを吊り上げ調整することにより、高さ10cmほどの畦を立てることができる。この畦立によって、梅雨期の湿害が回避でき、初期生育が旺盛となり、収量が増加した。</p> <p>・成果 生育初期の湿害が回避され、全刈り取り粗子実重は慣行平畦区の270kg/10aを20%上回る330kg/10aとなった。 普及員への研修会開催により当技術への関心が高まり、展示ほを設置する地域がでてきた。 展示ほを活用した視察研修や栽培研修会を開催したことにより、生産者の認知度が高まってきた。</p>
連携機関、協議会	岩手県麦・大豆等産地体制確立推進協議会、市町村、農協、生産組織、普及センター
取組の特徴や取組に際しての工夫	<p>・実証ほ設置農家と十分な打ち合わせを行い、技術の精度を高めることができた。</p> <p>・普及員の研修にも活用し、当技術習得を促進するとともに、普及員による栽培農家等への速やかな技術普及が期待できる。</p> <p>・関係機関・団体との成績検討会を開催を通じて、技術の普及拡大が期待できる。</p>
【参考】	

